

人物文献目録

2020-2022

Ⅱ 外国人編

凡 例

1. 収録期間と範囲

2020年1月～2022年12月に刊行された図書・雑誌から、外国人9,246人に関する人物文献（伝記・日記・回想・人物論・年譜・著作リスト・書誌等）24,264点を収録した。

2. 見出し語

- (1) 漢字圏の東洋人は原則漢字表記とし（但し、片かな表記が一般的な人物を除く）、それ以外の外国人は姓の片かな表記とした。いずれも本姓名によったが、通称・別称等が一般的と思われるものはそれを採用した。
- (2) 韓国・朝鮮人名の読みは可能な限り民族読みとした。
- (3) 各種人名辞典などの参考資料で原綴を確認できた西洋人名には、原綴を付した。
- (4) 人名見出し以外に一般に通称化した集団・血族名（例：ハプスブルク家）なども、見出し語として採用した。
- (5) 検索の便を図るため、適宜参照を用いた。
- (6) 巻末に原綴索引を付したので、片かな表記が不明な場合にはこちらを参照されたい。
- (7) 漢字は原則常用漢字・新字とした。

3. 見出しの排列

- (1) 見出し語の読みの五十音順とした。その際、姓名の読みを一単位として排列した。
- (2) 濁音・半濁音は清音扱いとし、ヂ→シ、ヅ→スとした。拗音・促音は直音扱い、長音符（音引き）は無視した。
- (3) 姓名などで同一排列順位となる場合は、その見出し語に使用されている文字の、片かな、平がな、漢字の順とした。
- (4) 世系などがある場合は必要に応じて補記した。

4. 文献の排列と記載の形式

(1) 排列

見出し語のもとに、図書、雑誌の順とし、各々の初めに◎・○を付して識別した。複数の場合は、刊行年月順とした。

(2) 記載の形式

下記の原則によって記載した。

1) 図書

◎書名／副書名／巻次／（著編者等）／出版者／刊行年月／総ページ数（叢書名）

なお、論集・図書の一部については以下のように記載した。

◎論題／（著者）／『書名／副書名』／（著編者等）／出版者／刊行年月

2) 雑誌の論文

○論題／著編者／「誌名」／発行者／巻（号）／発行年月／掲載ページ

5. 参考資料

主に以下のデータベースを参考にした。

BookPlus

JAPAN/MARC

MagazinePlus

- ～35
- 提題 アウグスティヌスにおける枢要徳(特集 枢要徳の形成と発展(1) 教父時代における枢要徳の受容と形成:第68回大会 シンポジウム)(菊地伸二)「中世思想研究」中世哲学会,知泉書館(発売)(62) 2020 p119～127
- アウグスティヌス『三位一体論』における「思考」(小沢隆之)「中世哲学研究」京大中世哲学研究会 (39) 2020 p1～19
- 『告白』への『再論』の第二のコメント:Augustinus, Retractiones, II,6,2(松崎一平)「中世哲学研究」京大中世哲学研究会 (39) 2020 p39～51
- アウグスティヌスの摂理論:創世記の創造物語の贖罪論的解釈(本城仰太)「伝道と神学:教会と神学大学を結ぶ」東京神学大学総合研究所 (12) 2022.3 p157～175
- アウグスティヌスの回心における障害の問題:『告白』第8巻についての一解釈(岡崎隆哲)「南山神学」南山大学人文学部キリスト教学科(44) 2021.3 p77～97
- 魂の不死の哲学(第4回)アウグスティヌス『三位一体論』(アダム・タカハン)「白山哲学:東洋大学文学部紀要 哲学科篇」東洋大学文学部哲学研究室 (56) 2022.3 p85～101
- アウグスティヌスの社会思想(小林淑憲)「北海学園大学経済論集」北海学園大学経済学会 70(1)通号226 2022.6 p1～8
- アウグスティヌスにおける「哀の作業」(文植頼)「名古屋学院大学論集.社会科学篇」名古屋学院大学総合研究所 56(4) 2020 p97～117

アウグストゥス Augustus

- ◎10人の皇帝たち—統治者からみるローマ帝国史(バリー・ストラウス著,森夏樹訳)青土社 2021.7 556,10p
- ◎アウグストゥス—虚像と実像(バーバラ・レヴィック[著],マクリン富佐訳)法政大学出版局 2020.8 423,122,21p(叢書・ユニベルシタス)
- ◎大戦略論—戦争と外交のコモンセンス(ジョン・ルイス・ギャティス著,村井章子訳)早川書房 2022.5 614p(ハヤカワノンフィクション文庫)

アウスレンダー,ローゼ Ausländer, Rose

- ローゼ・アウスレンダーの詩とスピノザとしてコンスタンティン・ブルナー(加藤文雄)「大谷大学研究年報」大谷学会 73 2020 p1～57
- ローゼ・アウスレンダーの「36人の義人たち」をめぐって(長田浩)「防衛医科大学校進学課程研究紀要」防衛医科大学校進学課程研究紀要編集委員会 (43) 2020.3 p59～67
- ローゼ・アウスレンダーの「雨」が意味するもの:スピノザ哲学が与えたその影響について(長田浩)「防衛医科大学校進学課程研究紀要」防衛医科大学校進学課程研究紀要編集委員会 (44) 2021.3 p35～45
- アウスレンダーとカフカにおける子どもの形象言語(長田浩)「防衛医科大学校進学課程研究紀要」防衛医科大学校進学課程研究紀要編集委員会 (45) 2022.3 p17～27

アウトワーブリッジ,ハワード・ウィルキンソン Outerbridge, Howard Wilkinson

- Howard Outerbridge: A Canadian Educational Missionary in Occupied Japan 1947-1951 (Andrew Hamish Ion)「明治学院大学キリスト教研究所紀要」明治学院大学キリスト教研究所 (53) 2021.3 p281～303

アウメイダ,ギリエルミ・ヂ Almeida, Guilherme de

- ギリエルミ・ヂ・アウメイダに関する覚書:1937年のハイカイ論「Meus haikais 余の俳譜」発表の前後を探る(大塚英二先生退職記念号)(スエナガエウニセ)「愛知県立大学大学院国際文化研究科論集.日本文化編」愛知県立大学大学院国際文化研究科 (13) 2022 p125～146

アウレオリ,ペトルス Aureoli, Petrus

- 徳なき思慮はない:トマス、スコトゥス、アウレオリと実践的判断(横田藏人)「山口大学哲学研究」山口大学人文学部 27 2020 p77～90

アウン・サン Aung San

- ◎ミャンマー危機—選択を迫られる日本(永杉豊著)扶桑社 2021.7 238p(扶桑社新書)
- ◎日本軍が銃をおいた日—太平洋戦争の終焉(ルイ・アレン著,並井亮平監訳,長尾睦也,寺村誠一訳)早川書房 2022.8 428p(大木毅監修

シリーズ 人間と戦争)

アウン・サン・スー・チー Aung San Suu Kyi

- ◎アウンサンスーチー政権下のミャンマー—最後のフロンティアの成長戦略(工藤年博,大木博巳,国際貿易投資研究所編著)文真堂 2020.2 212p
- ◎ミャンマーの矛盾—ロヒンギャ問題とスーチーの苦難(北川成史著)明石書店 2022.7 318p
- ◎ミャンマー危機—選択を迫られる日本(永杉豊著)扶桑社 2021.7 238p(扶桑社新書)
- ◎ミャンマー政変—クーデターの深層を探る(北川成史著)筑摩書房 2021.7 254p(ちくま新書)
- ◎ロヒンギャ危機—「民族浄化」の真相(中西嘉宏著)中央公論新社 2021.1 252p(中公新書)
- ◎ロヒンギャ 差別の深層(宇田有三著)高文研 2020.8 317p
- ◎黒魔術がひそむ国—ミャンマー政治の舞台裏(春日孝之著)河出書房新社 2020.10 277p
- ◎世界の“巨匠”の失敗に学べ! 組織で生き延びる45の秘策(池上彰,佐藤優著)中央公論新社 2022.7 275p(中公新書ラクレ)
- ◎「不完全国家」ミャンマーの真実—民主化10年からクーデター後までの全記録(深沢淳一著)文真堂 2022.1 444p

アエミリウス・パウルス Aemilius Paullus Macedonicus, Lucius

- ◎古代ローマ名特列伝(エイドリアン・ゴールズワーシー著,阪本浩訳)白水社 2020.1 521,47p

アガエフ, A. Agaev, Akhmed bek

- ロシア帝国からムスリム女性の解放を訴える:O・S・レベヂェヴァとA・アガエフのイスラーム的男女平等論(特集 ジェンダー)(帯谷知可)「史林」史学研究会 104(1)通号545 2021.1 p113～154

アカバロ,オラシオ Accavallo, Horacio

- ◎熾火—田辺清とエディが紡いだボクシングの絆(別府育郎著)ベースボール・マガジン社 2020.10 166p

アカル,ジャックス・F. Acar, Jacques Fouad

- Jacques Fouad Acar先生を偲んで(田村豊)「動物用抗菌剤研究会報」動物用抗菌剤研究会 (43) 2021.12 p52～55

アカロフ,ジョージ Akerlof, George Arthur

- 経済格差とフェイスから見た自殺:Erving Goffmanの社会学とGeorge A.Akerlofのアイデンティティ経済学を手がかりに(特集 その後の自殺対策(1)社会的な自殺問題と対策の現在)(阪本俊生)「精神科治療学」星和書店 36(8)通号429 2021.8 p887～893

アガンベン,ジョルジョ Agamben, Giorgio

- ◎GEIDO論(熊倉敬聡著)春秋社 2021.9 375p
- ◎アガンベン《ホモ・サケル》の思想(上村忠男著)講談社 2020.3 187p(講談社選書メチエ)
- ◎アガンベン読解 増補(岡田温司著)平凡社 2021.12 269p(平凡社ライブラリー)
- ◎概念と生—ドゥルーズからアガンベンまで(多賀茂著)名古屋大学出版会 2022.2 246,11p
- ◎「選って来た者」の言葉—コロナ禍のなかでいかに生きるか(神山睦美著)幻戯書房 2021.10 316p
- ◎教育学のバトス論的転回(岡部美香,小野文生編)東京大学出版会 2021.5 492,9p
- ◎“非在”のエティカー—ただ生きることの歓待の哲学(小野文生著)東京大学出版会 2022.9 350,30p
- 木村敏のピオス・ゾーエー概念について:アガンベンとの比較から(清水健信)「医学哲学医学倫理」日本医学哲学・倫理学会 (38) 2020 p41～47
- アガンベンから読み解く公教育における〈包摂と排除〉問題(特集「境界線の学校史」の射程)(倉石一郎)「〈教育と社会〉研究」一橋大学〈教育と社会〉研究会 (31) 2021 p29～38
- アガンベンのコロナ発言とズレ(高桑和巴)「群像」講談社 75(9) 2020.9 p346～353
- アガンベンと抵抗(高桑和巴)「慶応義塾大学日吉紀要.フランス語フランス文学」慶応義塾大学日吉紀要刊行委員会 (70) 2020 p185～208
- アガンベンにおけるパンヴェニスト(2)言表行為(エノンシヤシオン)

- (高桑和巴)「慶応義塾大学日吉紀要.フランス語フランス文学」慶応義塾大学日吉紀要刊行委員会 (71) 2020 p163～183
- アガンベンにおけるパンヴェニスト(3)中動態,語彙論(高桑和巴)「慶応義塾大学日吉紀要.言語・文化・コミュニケーション」慶応義塾大学日吉紀要刊行委員会 (52) 2020 p93～109
- 政治と生との結びつきをめぐるマックス・ヴェーバーの政治思想:フーコーとアガンベンを参照軸に(特集 マックス・ヴェーバー:没後一〇〇年)(水谷仁)「現代思想」青土社 48(17) 2020.12 p144～152
- ジョルジョ・アガンベン「カルマン」:世界哲学の試み(特集 現代思想の新潮流 未邦訳ブックガイド30)(園分功一郎)「現代思想」青土社 50(1) 2022.1 p8～13
- アガンベンにおけるパンヴェニスト(1)セミオティック/セマンティック(高桑和巴)「人文科学」慶応義塾大学日吉紀要刊行委員会(35) 2020 p195～220
- ジョルジョ・アガンベンにおける無為と行為:アリストテレス解釈をめぐるアレントとの比較を手がかりに(長島皓平)「政治思想研究」政治思想学会 (22) 2022.5 p181～212
- 目的のない手段としての思考:ジョルジョ・アガンベンの議論に着目して(寺道亮信)「東京大学大学院教育学研究科紀要」東京大学大学院教育学研究科 61 2021 p641～650
- 人々の生の縮減に抗する問い:G.アガンベンからI.イリイチへ(梶川萌)「東京大学大学院教育学研究科紀要」東京大学大学院教育学研究科 61 2021 p675～685
- 詩と証言:クレアの環境詩のアガンベンの解釈の試み(林以知郎先生Leo J.Loveday先生御退職記念号)(金津和美)「同志社大学英語英文学研究」同志社大学人文学会 (102) 2021.3 p43～66
- 特別講演 いのちの生成とケアリング:アガンベンの「身体の使用」をめぐって(丹本博一)「保健医療社会学論集」日本保健医療社会学会 30(2) 2020 p9～17
- ジョルジョ・アガンベンの高度資本主義批判(長島皓平)「法學政治学論究:法律・政治・社会」慶応義塾大学大学院法学研究科内「法學政治学論究」刊行会 (124) 2020.春季 p251～280
- 強制収容所における「恥ずかしさ」の考察:デルボー、レヴィナス、アガンベン(亀井佑佳)「立命館哲学」立命館大学哲学会 32 2021 p99～117

アキノ,ベニグノ(3世) Aquino, Benigno, III

- アキノの改革政治と競争法:包括的競争法成立にみる「包摂的成長」のビジョン(原民樹)「アジア研究」アジア政経学会 67(2) 2021.4 p1～20
- ミンダナオにおける民族紛争と和平努力:問題の背景、展開、そしてアキノ政権までの和平努力(東江日出郎)「東北公益文科大学総合研究論集:Forum 21」東北公益文科大学 (41) 2021 p71～101

アキン,ファティ Akin, Fatih

- 翻訳者たちのヨーロッパへ:ファティ・アキン、多和田葉子における彼方と此方の出会い方(特集 近さと遠さ)(新本史貴)「文芸研究:明治大学文学部紀要」明治大学文芸研究会 (147) 2022 p65～76

アクアヴィーヴァ・家(アラゴンの) Acquaviva

- アルテミジア・ジェンティレスキ<ローマの慈愛>:画像源泉およびアクアヴィーヴァ・ダラゴーナ・コレクションにおける受容(川合真木子)「東京藝術大学美術学部論叢」東京芸術大学美術学部 (16) 2020.3 p29～37

アクションノフ,エドゥアルド

- ◎羽生結弦を生んだ男—都築章一郎の道程(宇都宮直子著)集英社 2020.1 189p(集英社新書)

アグステイーニ,デルミラ Agustini, Delmira

- ミュージズの泉から遠ざかり、超越する詩人へ:デルミラ・アグステイーニの『白い本』と『朝の歌』の分析(駒井睦子)「清泉女子大学紀要」清泉女子大学 (68) 2021.1 p39～57

アクスライン,ヴァージニア・M. Axline, Virginia M.

- 日本の遊戯療法における「セラピストが子どもと一緒に遊ぶ」かたちへのV.M.アクスラインの影響を探る:F.H.アレン、E.ドルフマン、H.D.ジノット、C.E.ムスターカスにも注目して(丹羽郁夫)「現代福祉研究」法政大学現代福祉学部現代福祉研究編集委員会 (22) 2022.3 p53～73

- アクトン,ジョン Acton, John Emerich Edward Dalberg, 1st Baron
 - 『歴史とは何か』の人びと(2)謎のアクトン(近藤和彦)「図書」岩波書店 (886) 2022.10 p48～53

アグニュー,ロイ Agnew, Roy

- ロイ・アグニューのソナタに見る田園主義的音楽とモダニズム音楽の出会い:スクリャービンに傾倒したオーストラリア人コンポーザー=ピアニストの活動の軌跡(浜野与志男)「東京音楽大学研究紀要」東京音楽大学紀要編集委員会 45 2021 p45～66

アグニュー,ロバート Agnew, Robert

- アグニューの所説にみる犯罪理論研究の現状と展望:R.アグニュー『統合犯罪学に向けて:犯罪・人間・社会に関する想定統合』(斎藤亮仁)「教育・社会・文化:研究紀要」京都大学大学院教育学研究科(21) 2020 p49～56

アクーニン,ボリス Akunin, Boris

- コロナ時代の愛:ロンドン・東京往復書簡(特集 ウイルスとの対峙)(ボリス・アクーニン,沼野充義)「すばる」集英社 42(8) 2020.8 p184～191

アグリエッタ,ミシエル Aglietta, Michel

- 負債、主権、そして貨幣:グレーバーとアグリエッタ=オルレアンら『統合犯罪学に向けて:犯罪・人間・社会に関する想定統合』(喜多見洋教授 退職記念)(山本泰三)「大阪産業大学経済論集」大阪産業大学学会 23(2) 2022.3 p157～176

アグリコラ,ゲオルク Agricola, Georgius

- デ・レ・メタリカと開礦器法圖説と佐渡金銀山絵巻:旧資源工学図書館蔵書の桂園書館への移管(塚田和彦)「水曜会誌」京都大学工学部水曜会 25(3) 2020.10 p203～219

アグリコラ,ヨハネス Agricola, Johannes

- メランヒトンとアグリコラ:カテキズムをめぐって(菱刈晃夫)「国士館人文学」国士館大学文学部人文学会 (52) 2020.3 p21～45

アグリッパ,ハインリヒ・コルネリウス(ネッテスハイムの)

- Agrippa von Nettesheim, Heinrich Cornelius
 - モンテニューとコルネリウス・アグリッパ:『学芸の不確実性と空しさについて』をめぐって(中地義和先生退職記念特集号)(久保田剛史)「仏語仏文学研究」東京大学仏語仏文学研究会 (55) 2022 p7～26

アゴンシリョ,テオドロ・A. Agoncillo, Teodoro Andal

- テオドロ・A・アゴンシリョの『大衆の反乱』を読む:フィリピン革命史研究の原点として(永野善子)「神奈川大学アジア・レビュー:アジア研究センター年報」神奈川大学アジア研究センター 9 2021・22 p84～93

アーサー王 Arthur

- ◎書評 江藤淳著「漱石とアーサー王伝説—『薙露行』の比較文学的研究」『漱石論集こゝろのゆくえ』(斎藤恵子著)春風社 2021.11

アサド・キジルバッシュ Asad Qizilbash

- MOVIE PlayStation Productions アサド・キジルバッシュ(特集・PLAY HAS NO LIMITS 越境するゲームカルチャー)(アサド・キジルバッシュ)「Switch」スイッチ・パブリッシング 40(3)通号384 2022.3 p63～62

アーサー, T.S. Arthur, Timothy Shay

- ◎ボトルと涙—一九世紀アメリカ禁酒物語論(森岡裕一著)マナ・コムレード 2021.10 253p

アジェイ=ブレニヤ,ナナ・クワメ Adjei-Brenyah, Nana Kwame

- ナナ・クワメ・アジェイ=ブレニヤの『フライデー・ブラック』にみる現代アメリカの人種主義と暴力(庄司宏子)「成蹊大学文学部紀要」成蹊大学文学部学会 (57) 2022.3 p1～16

アジェージュ,ファビアン Hagege, Fabien

- 『ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像』の余白に(特集 映画

- 問認識起源論」の「美的・感性的なもの」を巡る一視座 (3)〔馬場朗〕「東京女子大学紀要論集」東京女子大学 73 (1) 2022.9 p65~124
- コンディヤックにおける歴史教育(中田浩司)「宝塚医療大学紀要」宝塚医療大学紀要委員会 (7) 2021.3 p45~55,57
- コンディヤックの言語教育論：時の役割と観念結合について(中田浩司)「宝塚医療大学紀要」宝塚医療大学紀要委員会 (8) 2022.3 p13~21,23
- アーコー『言葉と物』におけるコンディヤック(中) (飯野和夫)「名古屋大学人文学研究論集」名古屋大学人文学研究科 (3) 2020 p65~104
- アーコー『言葉と物』におけるコンディヤック(下)第六章 交換すること(飯野和夫)「名古屋大学人文学研究論集」名古屋大学人文学研究科 (4) 2021 p105~146

コンデ, マリーズ Condé, Maryse

- マリーズ・コンデによるファノンの書き換えー『笑い泣きのこころ』における「疎外」の概念(研究発表)(森島慧)「日本フランス語フランス文学会関東支部論集」日本フランス語フランス文学会関東支部 (29) 2020.12 p97~111

コントゥル Kong sprul Blo gros mtha yas

- チベット仏教文献読解における口伝の役割：コントゥルの「了義大中観」に対する23の誤謬」の読解を例として(佛教学会における第七回學術大会紀要(2)) (横殿伴子)「印度学佛教学研究」日本印度学仏教学会 68 (2) 通号150 2020.3 p897~892

コンドラチェフ, ニコライ Kondrat'ev, Nikolai Dmitrievich

- 2050年の産業革命とその知的財産への一考察：特許データとコンドラチェフ理論・勢力均衡理論から(矢作嘉章)「パテント」日本弁理士会 74 (7) 通号877 2021.7 p95~107
- 2050年の経済覇権：コンドラチェフ・サイクルで読み解く大国の興亡(嶋中雄二)「景気とサイクル」景気循環学会 (69) 2020.3 p67~77
- 中原奨励賞受賞記念講演 コンドラチェフ・サイクル：ついに転換点が到来か？(嶋津洋樹)「景気とサイクル」景気循環学会 (73) 2022.4 p54~64

コンドル, ジョサイア Conder, Josiah

- ジョサイア・コンドルの住宅建築における「婦人」の空間(特集 日本の出会いが生んだ家具・インテリア)(長谷川香)「家具道具室内史：家具道具室内史学会誌」家具道具室内史学会 (13) 2021.7 p8~33
- In the Footsteps of Josiah Conder (特集 七十周年を前にしてーコンドルの足跡を辿る)(Bruce Allen)「清泉文苑」清泉女子大学人文学研究所 (37) 2020 p20~24
- ジョサイア・コンドルと旧島津家本邸(創立七十周年記念号一特集 創立70周年を迎えて)(河東義之)「清泉文苑」清泉女子大学人文学研究所 (38) 2021 p28~33
- J・コンドルの伊香保行と写生(スケッチ)について(平山育男)「長岡造形大学研究紀要」長岡造形大学 (18) 2020 p60~67
- 田原新之助の『経歴書』原本を通してみた田原が従事した工事とJ・コンドルの作品(平山育男)「日本建築学会計画系論文集」日本建築学会 85 (768) 2020.2 p135~441
- J・コンドルが描いた“Koiso”の写生(スケッチ)(平山育男)「日本建築学会計画系論文集」日本建築学会 85 (769) 2020.3 p707~713
- J・コンドルのスケッチ・ブックの来歴と記載された年記の検討(平山育男)「日本建築学会計画系論文集」日本建築学会 85 (771) 2020.5 p1089~1095
- J・コンドルによる横浜事務所における活動の時期とその背景(平山育男)「日本建築学会計画系論文集」日本建築学会 85 (771) 2020.5 p1097~1103
- J・コンドルが第一論文“Notes of Japanese Architecture”に用いた写生(スケッチ)の原画の対象とその成立背景(平山育男)「日本建築学会計画系論文集」日本建築学会 85 (772) 2020.6 p1287~1293
- J・コンドルによる設計作品の意匠面における地震対策(平山育男)「日本建築学会計画系論文集」日本建築学会 86 (780) 2021.2 p629~635

コンドルセ, ニコラ・ド Condorcet, Marie Jean Antoine Nicolas de Caritat Marquis de

- コンドルセ「教育に関する五つの覚書」プーフェンドルフ『自然法と

万民法」(池田潔教授、東山明子教授、松尾満教授、水田正史教授 退職記念号)(森岡邦泰[訳])「大阪商業大学論集」大阪商業大学商経学会 18 (1) 通号205 2022.8 p97~109

- コンドルセの代表制論：フランス革命期における「代表民主政」の視点(永見瑞木)「大阪府立大学紀要、人文・社会科学」大阪府立大学高等教育推進機構、大阪府立大学(人文・社会科学)紀要編集委員会 70 2022 p1~21
- ヨーロッパ啓蒙思想と近代公教育論の考察：ロック、ルソー、コンドルセを中心に(植田啓嗣)「福島大学人間発達文化学類論集」福島大学人間発達文化学類 (34) 2021.12 p1~11

コンヌ, アラン Connes, Alain

- 数学の統一化へ向けての弁証法とアナロジー：A.Connesの非可換微分幾何学の場合(原田雅樹)「関西学院哲学研究年報」関西学院大学哲学研究室 55 2021 p1~31

コンバ, エミールオ Comba, Emilio

- 「福音的イタリヤ」とリソルジメント：自由主義期のヴァルド派牧師エミールオ・コンバとその歴史叙述(白川太郎)「史観」早稲田大学史学会 184 2021.3 p72~98

コンパニオン, アントワーン Compagnon, Antoine Marcel Thomas

- 合わせて80年を振り返る：文学の教師として、研究者として(交錯する二つの軌跡)(アントワーン・コンパニオン、中地義和、澤田直、深田孝太郎[訳])「日仏文化」日仏会館 (91) 2022.3 p41~67

コーン, ハンス Kohn, Hans

- 文献紹介 ハンス・コーン「東方の精神 [Der Geist des Orients]」(小島晃)「社会理論研究」千書房,JIRC (発売) (21) 2021.1 p91~94

コンブソン, ジェイソン Compson, Jason

- ジェイソン・コンブソンの不安といら立ち：『誓きと怒り』、近代との格闘(竹内理矢)「フォークナー：フォークナー協会誌」松柏社 (22) 2020.7 p147~176

コンプトン, アーサー Compton, Arthur Holly

- ◎核エネルギーの時代を拓いた10人の科学者たち(馬場祐治著) 総合科学出版 2020.7 182p

ゴンブリッチ, エルンスト・ハンス Gombrich, Ernst Hans Josef

- 歪められた肖像の「政治的」効用：E・クリスとE・H・ゴンブリッチのカリカチュア研究から出発して(二宮聖)「美学」美術出版社(発売) 72 (2) 通号259 2021.冬 p24~35

コンモドウス Commodus, Lucius Aelius Aurelius

- ◎ダムナティオ・メモリアエーつくり変えられたローマ皇帝の記憶(福山佑子著) 岩波書店 2020.10 185,55p

コンラッド, ジョゼフ Conrad, Joseph

- ◎(わたしたち)の到来ー英語圏モダニズムにおける歴史叙述とマニフェスト(中井亜佐子[著]) 月曜社 2020.6 299,6p(シリーズ「哲学への扉」)
- ◎コンラッドの小説におけるジェンダー表象ーミソジニストをこえて(岩清水由美子著) 長崎県立大学佐世保校学術研究会 2021.3 256p(長崎県立大学佐世保校研究叢書)
- ◎コンラッドの小説におけるジェンダー表象ーミソジニストをこえて(岩清水由美子著) 南雲堂 2021.6 254p
- ◎ジョウゼフ・コンラッドの風景ーサンエテグジュベリ、オルハン・パムク、ドストエフスキー、カズオ・イシグロ、小泉八雲、夏目漱石、宮崎駿、村上春樹 新訂(松村敏彦著) 大阪教育図書 2021.1 931p
- ◎二〇世紀「英国」小説の展開(高橋和久、丹治愛編著) 松柏社 2020.3 515p
- ◎コンラッド Joseph Conrad【照応と総合ー土岐恒二個人著作集+シンポジウム】(土岐恒二他著、吉田朋正編) 小島遊書房 2020.8
- ジョゼフ・コンラッド「救済者」の頓挫の原因：モード間の矛盾と原稿最終部の異質性からの考察(高畑悠介)「英文学研究」日本英文学会 98 2021.12 p1~17
- ジョゼフ・コンラッド「闇の奥」とポストコロニアルワード：コーバと言語・構造の視座から(深津勇仁)「言語文化学会論集」言語文化学会 (54) 2020.夏 p213~236

- Memories of Sail and Steam in Joseph Conrad's 'Youth'(榎田一路,Walter DAVIES,Simon FRASER)「広島外国語教育研究」広島大学外国語教育研究センター (23) 2020 p149~161
- ジョウゼフ・コンラッドとアフリカ：『闇の奥』と短篇作品におけるアンビバレンス(藤山和久)「比較文化研究」日本比較文化学会 (138) 2020.1.31 p91~100
- 奪われた声の回復ーJoseph Conradの“Amy Foster”からBeeban KidronのSwept from the Seaへ(松原栄子)「論集」青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻院生会 (45) 2021.3 p1~17

コンラート, クラウス Conrad, Klaus

- クラウス・コンラートにおける「トレマ」・「アポフェニー」・「アボカリプス」概念：分裂病シュープと意識の崩壊(金子順一)「トランスパーソナル学研究」日本トランスパーソナル学会 (16) 2020.10 p55~62

コンラド, ニコライ Konrad, Nikolai Iosifovich

- ◎「世界文学」はつくれる 1827・2020(秋草俊一郎著) 東京大学出版会 2020.6 383,21p

コンリス, ジョン・F. Conliss, John Francis

- ◎ジョン・F.コンリスと南山学園(南山アーカイブス編集) 南山アーカイブズ 2021.3 77p(南山学園史料集)

【サ】

サアープ, ジョスリーン Saab, Jocelyne

- ◎さらば、ペイルートージョスリーンは何と闘ったのか(四方田大彦著) 河出書房新社 2022.5 235p

ザヤンス, ロバート Zajonc, Robert Boleslaw

- 情動に認知はいらない？：ザヤンスvs.ラザルス論争の再検討(成瀬翔、獅子修司)「哲学と現代」名古屋哲学研究会 (36) 2021.2 p113~130

蔡 易達 サイ, イタツ

- 落花不語空辞樹 流水無心自入池：十五年間の感謝の心を込めて(蔡易達)「帝京史学」帝京大学文学部史学科 (36) 2021.2 p1~6

サイド・イスハーク・アスタラーバーディー Sayyid Ishāq Astarābādī

- フルーフィー教団における終末論の断片：サイド・イスハーク・アスタラーバーディーの「時の終わりに」に関する見解(特集 滅び)(角田哲朗)「史林」史学研究会 105 (1) 通号551 2022.1 p64~100

崔 瑩 サイ, エイ

- ◎俠の歴史 下ー士は己を知る者のために死す、「俠」に生きた勇者たち(上田信編著) 清水書院 2020.11 425p

蔡 英文 サイ, エイブン

- ◎なぜ台湾は新型コロナウイルスを防げたのか(野嶋剛著) 育鷗社 2020.7 269p(扶桑社新書)
- ◎アフターコロナ 日本の宿命ー世界を危機に陥れる習近平中国(淺沼博著) ワック 2020.8 196p(WAC BUNKO)
- ◎台湾VS中国 謀略の100年史ーなぜ中国共産党が台湾を支配したがるのか？(近藤大介著) ビジネス社 2021.10 263p
- ◎蔡英文再選ー2020年台湾総統選挙と第2期蔡政権の課題 オンデマンド版(佐藤幸人、小笠原欣幸、松田康博、川上桃子著) 日本貿易振興機構アジア経済研究所 2020.12 7,142p
- コロナ禍の中台関係：台湾蔡政権、中国の圧力にも実務的姿勢堅持(石原忠浩)「金融財政business：時事トップ・コンフィデンシャル+」時事通信社 (11048) 2022.2.28 p14~18
- コロナ下のリーダー群像(5)台湾 蔡英文：民主主義を鼓舞する真の指導者(吉崎達彦)「金融財政事情」金融財政事情研究会、きんざい(発売) 72 (34) 通号3417 2021.9.21 p52~53

- 総統選挙：蔡英文総統が圧勝で再選！：立法委員選挙も民進黨が単独過半数獲得で完全執政へ！(2020年1月)(石原忠浩)「交流：台湾情報誌」日本台湾交流協会総務部 (946) 2020.1 p1~4
- 「武漢肺炎」への対応、蔡英文第二次政権発足、高雄市長の罷免(2020年4月中旬・7月上旬)(石原忠浩)「交流：台湾情報誌」日本台湾交流協会総務部 (952) 2020.7 p3~12
- 民進黨は政権長期化するか？：ポスト蔡英文を読み解く(松田康博)「交流：台湾情報誌」日本台湾交流協会総務部 (964) 2021.7 p1~8
- 第2次蔡英文政権下の中台関係・米台関係を振り返る(水村太紀)「交流：台湾情報誌」日本台湾交流協会総務部 (964) 2021.7 p9~15
- 久保田信之氏インタビュー 蔡英文再選の台湾と李登輝の思想(下)(久保田信之)「世界思想：平和大使運動を推進するオピニオン情報誌」平和大使協議会 2 (1) 通号13 2020.4 p2~5
- 蔡英文総統再選と韓国瑜高雄市長リコール成立の経過：「韓流ブーム」と香港問題の台湾民意への影響(浅野和生)「平成法政研究」平成国際大学法政学会 25 (1) 通号48 2020.11 p1~51
- 2020年台湾総統選挙における蔡英文再選の要因：台湾ナショナリズム、習近平、アメリカ(特集 中国・第2期習近平政権の中間評価と展望)(渡辺剛)「防衛学研究」日本防衛学会 (62) 2020.3 p77~97
- 蔡英文圧勝の背景と制約：正統性、内的正当性、対外的正当性のトリレンマ(特集 台湾総統選挙・第二期蔡英文政権)(松村昌廣)「問題と研究：アジア太平洋研究専門誌」国立政治大学国際関係研究センター 49 (3) 通号470 2020.7/9 p1~36
- 第二期蔡英文政権の台米中関係の展望(特集 台湾総統選挙・第二期蔡英文政権)(顔建発)「問題と研究：アジア太平洋研究専門誌」国立政治大学国際関係研究センター 49 (3) 通号470 2020.7/9 p37~72
- 「雷玉効果」はあったのか？ 台湾選挙2018~2020年(特集 台湾総統選挙・第二期蔡英文政権)(俞振華)「問題と研究：アジア太平洋研究専門誌」国立政治大学国際関係研究センター 49 (3) 通号470 2020.7/9 p107~144

蔡 琰 サイ, エン

- ◎蔡文姫の転生一(伝)狩野元信「観輿人狩猟打毬図」をめぐる(板倉聖哲著)「日本美術のつくり方ー佐藤康宏先生の退職によせて」(板倉聖哲、高岸輝編) 羽鳥書店 2020.12

崔 鈺植 サイ, エンシヨク

- 崔鈺植氏のコメントに対する回答(第8回學術大会テーマ 疑偽経と東アジア仏教)(佐藤厚)「東アジア仏教学術論集：韓・中・日国際仏教学術大会論文集」東洋大学東洋学研究所 (8) 2020.2 p164~166

蔡 温 サイ, オン

- ◎16世紀後半から19世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における“朱子学”遷移の諸相(片岡竜彦) 春風社 2020.2 309p
- 哲人宰相蔡温の儒学(中村春作)「東洋古典学研究」東洋古典学研究会 53 2022.5 p61~78

崔 官 サイ, カン

- 『匿名手本忠臣蔵』に使われたことわざの韓国語訳：直訳戦略とその形式(高永珍)「同志社大学日本語・日本文化研究」同志社大学日本語・日本文化教育センター (19) 2022.3 p29~49

崔 漢綺 サイ, カンキ

- 西周と崔漢綺：近代東アジアにおける二つの自然理解(「新しい科学の考え方をとめて：東アジア科学文化の未来」報告集ー自然観・自然哲学と文化的背景)(金成根)「アリーナ」中部大学、鳳蝶社(発売)(特別号) 2020 p64~72

蔡 玉卿 サイ, ギョウキョウ

- ◎黄道周研究(河内利治著) 汲古書院 2020.1 545,96p
- ◎黄道周年譜(附蔡玉卿)【黄道周研究】(河内利治著) 汲古書院 2020.1

蔡 元培 サイ, ゲンバイ

- 蔡元培と小西重直(吉川榮一)「明星大学全学共通教育研究紀要」明星大学教育学部全学共通教育委員会 (2) 2020.3 p85~95

崔 紅芬 サイ, コウフン

- 崔紅芬氏の発表論文に対するコメント(第8回學術大会テーマ 疑偽経と東アジア仏教)(索耀寧、松森秀幸[訳])「東アジア仏教学術論集：韓・中・日国際仏教学術大会論文集」東洋大学東洋学研究所 (8)

- 明月堂書店 2020.10 300p
- ◎不安を力に変えるゆるっと哲学(ただち著、小川仁志監修) ばる出版 2020.7 271p
- ◎ドゥルーズ『シネマ』と現象学—イマージュ・知覚・想像(大石和久) [アートと、そのあわいて—北村清彦教授北大退職記念論集] (北海道大学芸術学研究室編集) 中西出版 2021.5
- ◎G・ドゥルーズ/F・ガタリ『千のプラトール』吉本隆明全集(28 吉本隆明著) 晶文社 2022.4
- 築地正明著『わたしたちがこの世界を信じる理由』『シネマ』からのドゥルーズ入門(田辺秋守)『映像学：Japanese journal of image arts and sciences』日本映像学会 (105) 2021 p112~116
- 〈自分ごととして考える〉ことはできるのか：ドゥルーズの思考論をめぐる一考察(瑞慶覧亮太)『沖繩国際大学総合学術研究紀要』沖繩国際大学総合学術学会 22(1)通号29 2020.12 p41~59
- ドゥルーズとナラティブの密やかな関係(特集 家族療法の認識論と理論の現在)(小森康永)『家族療法研究』日本家族療法学会、金剛出版(発売) 37(1)通号96 2020 p33~39
- アゴラ 森田裕之著『ドゥルーズ『差異と反復』を読む』(森田裕之)『近代教育フォーラム』教育思想史学会 (29) 2020 p236~239
- ドゥルーズの思想における「語り示し」の機制(語り示しの実践としての教育哲学研究の可能性：レヴィナス、デリダ、ドゥルーズから)(松枝拓生)『近代教育フォーラム』教育思想史学会 (30) 2021 p144~146
- SEEDS：現代新書タネ(5)この上なく非ドゥルーズ的な世紀においてドゥルーズを読むということ：万人のための、そして誰のためでもない哲学という猛毒について(鹿野祐嗣)『群像』講談社 77(6) 2022.6 p394~397
- ルフェブルにおける〈創造的なイメージ〉と特異性：ドゥルーズ人権論の足掛かりとして(大野悠介)『憲法研究』信山社 (10) 2022.5 p289~301
- 少女の目に映るわたしたちが彼女のこの世界を信じる理由となるために：ドゥルーズのマゾッホ論からみるフェティシズムについて(総特集 フェミニズムの現在)(黒木萬代)『現代思想』青土社 48(4) (臨増) 2020.3 p283~289
- ポスト・ヒューマニティーズへの百年(第13回)永遠帰郷への脱根拠化：ドゥルーズ(浅沼光樹)『現代思想』青土社 49(2) 2021.2 p221~227
- ポスト・ヒューマニティーズへの百年(第14回)器官なき身体：ドゥルーズ(続)(浅沼光樹)『現代思想』青土社 49(3) 2021.3 p213~219
- 哲学の孤独と喧騒：ドゥルーズとガタリの共同作業を再評価する(特集 哲学のつくり方)(小林卓也)『現代思想』青土社 50(10) 2022.8 p165~173
- 福永武彦『草の花』における転移と賭けの問題：ラカンの精神分析理論とドゥルーズの超越論的哲学に依拠して(桑原旅人)『言語情報科学』東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻 (20) 2022 p161~177
- ドゥルーズ『巽：ライブニッツとバロック』のホワイトヘッド(吉澤保)『桜文論叢』日本大学法学部機関誌編集委員会 101 2020.3 p25~69
- 『千のプラトール』における内在と超越(小倉眞先生 江島泰子先生 于曉飛先生 退職記念号)(吉澤保)『桜文論叢』日本大学法学部機関誌編集委員会 103 2021.2 p223~262
- ヒステリーの身体的二つの形象性：ドゥルーズとフロイト(フロイト・ルネッサンス(1)思想編)(小倉拓也)『思想』岩波書店 (1167) 2021.7 p106~122
- 『差異と反復』第二章における無意識論の帰結：ドゥルーズによるフロイトの無意識系と死の欲動の再解釈について(フロイト・ルネッサンス(1)思想編)(鹿野祐嗣)『思想』岩波書店 (1167) 2021.7 p123~143
- ドゥルーズ『シネマ』におけるイメージ概念の実践的価値(福尾匠)『常盤台人間文化論叢』横浜国立大学都市イノベーション研究院 6 2020.3 p5~31
- ドゥルーズが『差異と反復』で言及していた数学はどのようなものであったのか、そしてそこにドゥルーズは何をみていたのか(近藤和歌)『人文科学論集』鹿児島大学法文学部紀要』鹿児島大学法文学部 (87) 2020 p1~26
- 哲学と病院：フーコーとドゥルーズにおける(哲学と狂気)(小泉義之)『哲学雑誌』哲学会、有斐閣(発売) 134(807) 2020 p16~32
- ドゥルーズ『感覚の論理学』における「器官なき身体」：「感覚」と関連で(内藤慧)『哲学論集』上智大学哲学会 (49) 2020 p87~102
- 「非人称主義」というひとつの起源—トウルニエとドゥルーズは何を

- 共有し、どこですれちがったのか(研究発表)(中江太一)『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』日本フランス語フランス文学会関東支部 (30) 2021.12 p29~43
- 狼の一振りとチェスゲーム—ドゥルーズのライブニッツ再訪をめぐって(研究発表)(飯野雅敏)『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』日本フランス語フランス文学会関東支部 (30) 2021.12 p83~97
- 萩原朔太郎『藪町』における「形而上の实在世界」：ジル・ドゥルーズの「超越論的経験論」との比較から(桑原旅人)『表象』表象文化論学会、月曜社(発売) (16) 2022 p137~150
- ドゥルーズ『差異と反復』における存在の一義性の系譜：スコトウス・スピノザ・ニーチェ(人見隼平)『表象』表象文化論学会、月曜社(発売) (11) 2021 p147~168
- ハイデガーとドゥルーズ、その差異(半田広宣)『武蔵野短期大学研究紀要』武蔵野短期大学 36 2022 p195~199
- 自然とともに生成する人間の探求：レヴィエストロース、ドゥルーズ、トウルニエのロビンソン(中江太一)『文学と環境』ASLE-Japan/文学・環境学会 (24) 2021.6 p39~48
- ロングインタビュー 坂口恭平 土、ドゥルーズ、石牟礼道子(特集 坂口恭平とは何者か?) (坂口恭平、九龍ジョー)『文藝界』文藝春秋 75(10) 2021.10 p192~202
- 映画哲学序論：いかなる意味でジル・ドゥルーズ『シネマ』は哲学の書物であるのか(大山戴吉)『立教映像身体学研究』立教大学大学院現代心理学研究科映像身体学専攻 (8) 2021 p1~24
- ドゥルーズ『シネマ』における結晶的体制と非時系列的な時間について(大山戴吉)『立教映像身体学研究』立教大学大学院現代心理学研究科映像身体学専攻 (9) 2022 p23~48
- エクリチュールに仮託された生：ドゥルーズ『批評と臨床』における方法と動因(黒木秀房)『立教大学フランス文学』立教大学フランス文学研究室 (50) 2021 p69~87

トウルース, ソジャーナ

- ◎ソジャーナ・トウルース(フランシス・デーナ・ゲージ著)『アメリカの声をひろう—言葉で闘う語り手たち』(能勢卓監修、日本英語表現学会関西文学研究部会訳) ナカニシヤ出版 2022.3

トウルーズ=ロートレック, アンリ・ド Toulouse-Lautrec,

- Henri de
◎西洋絵画で楽しむパズル塗り絵(パズル塗り絵研究会著) 宝島社 2022.3 1冊

トゥルナイゼン, エドワルト

- 始業講演 トゥルナイゼンの『教会学』に関する一考察：死なんとする者と悲しむ者への想い(藤田英夫)『教会の神学』日本基督教神学校 (28) 2021 p1~24

トゥルニエ, ミシェル Tournier, Michel

- 「非人称主義」というひとつの起源—トウルニエとドゥルーズは何を共有し、どこですれちがったのか(研究発表)(中江太一)『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』日本フランス語フランス文学会関東支部 (30) 2021.12 p29~43
- フライデーの無人島からの出奔は何を意味するのか：『フライデーあるいは太平洋の冥界』におけるロビンソンの記号学へのアイロニーを中心に(中地義和先生退職記念特集号)(中江太一)『仏語仏文学研究』東京大学仏語仏文学研究会 (55) 2022 p285~303
- 自然とともに生成する人間の探求：レヴィエストロース、ドゥルーズ、トウルニエのロビンソン(中江太一)『文学と環境』ASLE-Japan/文学・環境学会 (24) 2021.6 p39~48

トゥルヌフォール Tournefort, Joseph Pitton de

- ◎ナチュラリストの系譜—近代生物学の成立史(木村陽二郎著) 筑摩書房 2021.2 286p(ちくま学芸文庫)
- ◎ボタニストバリの標本館を築いた植物学者たち(マルク・ジャンソン著、シャルロット・フォーヴ編、佐々木ゆか訳、中原毅志監訳、菅原敬植物監修) タイブショップgプレス 2020.10 251p(ヴァンケルハーケン叢書)

トゥルヌミーヌ, ルネ・ジョセフ・デ

- 後期ライブニッツと心身結合の問題：トゥルヌミーヌが実体的紐帯に与えた影響について(三浦準輝)『東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集』東京大学大学院人文社会系研究科 (39)

2020年度 p59~72

トゥループ

- ◎明治三年 欧州視察団周遊記—新潟から会津・米沢への旅(青柳正俊著) 歴史春秋出版 2020.12 220p

トゥールブラッド, ロバート・M.

- Robert M.Truebloodの会計思想(栢田龍三)『会計学研究』専修大学会計学研究所 (47) 2021 p1~25

トゥールミン, スティーヴン・E.

- トゥールミンの論証モデルによる教材構成の論理分析：小学校理科教科書を対象にして(工藤志文)『教授学習心理学研究』日本教授学習心理学会 15(1) 2020.1 p1~10
- トゥールミン・モデルにおける「隠れた」次元の解学的再構築(立山利治)『国際武道大学研究紀要』国際武道大学 (37) 2021 p51~66
- トゥールミン・モデルや権利図式の活用で考察力を育てる学習指導(和田清司教授 記念号—中等社会科の理論と実践)(杉浦正和)『武蔵大学人文科学雑誌』武蔵大学人文科学 (53(2)通号209 2022.2 p183~202

トゥールリー Drury, Maurice O'Connor

- ウイトゲンシュタインがトゥールリーに語ったこと：複数のテキストに「一つの論理を読む」(川崎誠)『理想』理想社 (707) 2022 p142~153

トゥルン・ウント・タクシス・家 Thurn und Taxis

- トゥルン・ウント・タクシス侯爵の家族史と世襲財産：南ドイツの大土地所有者(酒井重喜教授 退職記念号)(加藤房雄)『熊本学園大学経済論集』熊本学園大学経済学 27(1-4) 2021.3 p45~63
- ヴェルテンベルクのトゥルン・ウント・タクシス家とプロイセンのクロツシン侯領：ドイツ世襲財産の一形態(加藤房雄)『広島大学経済論叢』広島大学経済学 44(1・2)通号130 2020.11 p43~55

トゥルン, モニク Truong, Monique

- 食と飢えについて語る：『ブック・オブ・ソルト』における亡命者たちの物語(松本ユキ)『渾沌：近畿大学大学院文芸学研究科紀要』近畿大学大学院文芸学研究科 (18) 2021 p117~131

ドゥ・レキュル, エマニュエル

- フランシス・ルボン、エマニュエル・ドゥ・レキュル編『21世紀転換期の民衆教育』(岩橋恵子)『研究紀要』志學館大学人間関係学部 43 2022.3 p71~78

ドゥンドゥップ・ワンチェン

- ◎バンと牢獄—チベット政治犯ドゥンドゥップと妻の亡命ノート(小川真利枝著) 集英社クリエイティブ 2020.3 254p

トゥーンベリ, グレタ Thunberg, Greta

- ◎グレタの真実—3週間で世界を変えた少女の素顔(アンダシュ・ヘルベリ著、西田佳子訳) 潮出版社 2022.7 171p
- ◎グレタ・トゥーンベリ(グレタ・トゥーンベリ[述]、ジェフ・ブラックウェル、ルース・ホプデイ編、橋本恵訳) あすなろ書房 2020.6 84p(信念は社会を変えた! 6人のインタビュー)
- ニューノーマル時代の読書術「落ち着け!」とグレタ・トゥーンベリさんは言った(百合野正博)『企業会計』中央経済社、中央経済グループパブリッシング(発売) 73(5) 2021.5 p698~701
- 「グレタ・トゥーンベリさんの主張と活動に関して：出版された何冊かの本を読んで」の追加と訂正(竹田裕子)『子どもと科学よみの』科学読物研究会会報編集部 (504) 2020.8・9 p4~6
- マルクス・リケルト氏によるツェンベリ(トゥーンベリ)の「合せカルタ」の発見(江崎崇)『人形玩具研究：かたち・あそび：日本人形玩具学会会誌』日本人形玩具学会 31 2020 p21~28
- 中学校・社会科の授業デザイン(グレタ・トゥーンベリさんの活動・演説をもとに)：地・歴・公民分野、そして道徳等からアプローチした学習指導案の作成と模擬授業(梶ヶ谷穂)『青山学院大学教職研究』青山学院大学教職課程指導室 (6) 2020 p69~142

ドガ, エドガー Degas, Edgar

- ◎ドガダンスデッサン(ポール・ヴァレリー著、塚本昌則訳) 岩波書店 2021.11 317p(岩波文庫)
- ◎絵画の政治学(リンダ・ノックリン著、坂上桂子訳) 筑摩書房 2021.12 425p(ちくま学芸文庫)
- ◎近代絵画 新版(小林秀雄著) 新潮社 2020.10 388.7p(新潮文庫)
- ◎中野京子と読み解く運命の絵—なぜ、ままたまらない(中野京子著) 文芸春秋 2020.11 204p
- 研究ノート エドガー・ドガ(ルーヴル美術館考古展示室にて、メアリー・カサット)『沼田英子』『横浜美術館研究紀要』横浜美術館 (22) 2021.3 p77~90
- ドガの踊り子における運動表現の独自性：19世紀のテクノロジーとその視覚性から(藤本奈七)『人文論究』関西学院大学人文科学 (3・4) 2020.2 p123~145
- エドガー・ドガのモノタイプ：1870年代における制作理由と役割に関する一考察(神津有希)『美術史論叢』東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室紀要』東京大学大学院人文社会系研究科・文学部美術史研究室 (37) 2021 p66~52.50~46.44~43

トカルチュク, オルガ Tokarczuk, Olga

- 辺境図書館(26)『暴君』スティーブン・グリーンブラット『空襲と文学』W・G・ゼーバルト『優しい語り手』オルガ・トカルチュク(皆川博子)『群像』講談社 77(5) 2022.5 p506~509

ド・カンドル de Candolle, Alphonse Louis Pierre Pyrame

- ◎ナチュラリストの系譜—近代生物学の成立史(木村陽二郎著) 筑摩書房 2021.2 286p(ちくま学芸文庫)

ドーキンス, リチャード Dawkins, Richard

- ◎生命の謎—ドーキンス『盲目の時計職人への反論』(中川豪著) アートヴィレッジ 2020.1 299p

トクヴィル, アレクシ・ド Tocqueville, Alexis de

- ◎アメリカ批判理論—新自由主義への応答(マーティン・ジェイ、日暮雅夫共編) 見洋書房 2021.3 226p
- ◎トクヴィルと明治思想史—(デモクラシー)の発見と忘却(柳愛林著) 白水社 2021.11 325.9p
- ◎ニッポンを蝕む全体主義(道楽取著) 祥伝社 2022.5 195p(祥伝社新書)
- ◎自由の国と感染症—法制度が映すアメリカのイデオロギー(ヴェルナー・トレスケン著、西村公男、青野浩訳) みすず書房 2021.12 254.55p
- ◎明治革命・性・文明—政治思想史の冒険(渡辺浩著) 東京大学出版会 2021.6 601.16p
- トクヴィルという謎：自由主義と代表制(3)(宮代康文)『思想』岩波書店 (1157) 2020.9 p116~134
- トクヴィルという謎：利益と徳(4)(宮代康文)『思想』岩波書店 (1162) 2021.2 p118~134
- トクヴィルと思想家たち(第1回)トクヴィルとパスカル(中田豊)『神奈川大学評論』神奈川大学広報委員会 (95) 2020 p144~146
- トクヴィルと思想家たち(第2回)トクヴィルとモンテスキュー(中田豊)『神奈川大学評論』神奈川大学広報委員会 (96) 2020 p109~112
- トクヴィルと思想家たち(第3回)トクヴィルとルソー(中田豊)『神奈川大学評論』神奈川大学広報委員会 (97) 2021 p116~118
- アンテペラム期の国制理解を巡る考察：アレクシス・トクヴィルとトマス・クーバーを中心に(上)(朝立康太郎)『西南学院大学国際文化論集』西南学院大学学術研究所 36(1) 2021.9 p67~85

徳山 宣鑑 トクザン, センガン

- ◎百六十七文字の公案—徳山宣鑑とふたりの学人(竹之下正俊著) ノンブル社 2020.11 286p(東西霊性文庫)

徳宗(唐) トクソウ

- 唐徳宗朝・貞元四年の重陽賜宴と韋忠物をめぐって：貞元文壇に関する考察(土谷彰男)『人文論集』早稲田大学法学会 (60) 2021 p93~130

ドクチャーエフ, ヴァシーリー・V.

- 近代土壌学の先駆者たち：Fallou-Hilgard-Dokuchaev(久馬一剛)

人物文献目録 2020-2022 Ⅲ 外国人編

2023年7月25日 第1刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／シナノ印刷株式会社

© Nichigai Associates, Inc. 2023

不許複製・禁無断転載

〈中性紙北越淡クリームキンマリ使用〉

〈落丁・乱丁本はお取り替えいたします〉

ISBN978-4-8169-2968-7

Printed in Japan, 2023

本書はデジタルデータをご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。